

沼田町地域畑作物輪作計画

平成30年 5月11日
沼田町農業再生協議会 審議

沼田町農業再生協議会は、本計画に基づき畑作物等の作付を推進し、適正な輪作体系の維持確立を目指す。

1. 現状

(1) 品目別作付構成 (主な畑作物等)

【平成29年産 (前年)】		面積 (ha)		構成割合	単収	収穫量
		うち田		(%)	(kg/10a)	(t)
麦類	小麦 秋まき小麦	252.03	61.38	21.35	345.73	871.35
豆類	大豆	227.20	85.18	19.25	209.36	475.67
	小豆	0.13	0.13	0.01	69.23	0.09
	計	227.33	85.31	19.26	-	-
馬鈴薯	生食用	6.55	0.00	0.55	3,987.02	261.15
	(系統でん粉工場出荷量)	-	-	-	-	74.11
	計	6.55	0.00	0.55	-	-
てん菜		34.88	6.81	2.95	5,693.80	1,986.00
そば		597.03	223.54	50.57	77.71	463.96
野菜	ブロッコリー	15.38	8.15	1.30	421.32	64.80
	加工用トマト	6.24	4.16	0.53	5,670.35	353.83
	メロン	0.80	0.80	0.07	1,751.25	14.01
	ミニトマト	0.41	0.41	0.03	4,714.63	19.33
	その他	8.92	2.91	0.76	-	-
	計	31.75	16.43	2.69	-	-
飼料作物	牧草 (乾燥)	6.66	2.23	0.56	172.67	11.50
	計	6.66	2.23	0.56	-	-
地力作物		24.30	20.64	2.06	-	-
合計		1,180.53	416.34	100.00	-	-

※地力作物 (うち田) : 輪作緑肥2.63、休閑緑肥4.88、連作緑肥18.29

(2) 基本的な輪作の流れ (平成29年産時点)

営農類型	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
畑作専業	① 大豆	大豆	間作秋まき小麦	秋まき小麦	
	② そば	秋まき小麦	大豆		
畑作野菜	① 露地野菜	大豆	間作秋まき小麦		
	② 露地野菜	秋まき小麦	秋まき小麦	大豆	大豆
畑作水田複合	水稲	大豆	大豆	大豆	水稲
そば中心	そば	そば	そば	そば	そば

(3) 品目別作付構成の問題点

- 大豆の過剰作付により、ダイズシストセンチュウ発生の危険性が高い。
- そばの連作による収量・品質・風味の低下。
- 労力を多く必要とする露地野菜の作付が減少し、労働時間の少ないそばの作付が増加。

2. 目指すべき「適正な輪作体系」

(1) 品目別作付構成 (主な畑作物等)

【平成30年産 (目標)】			面積 (ha)		構成割合 (%)	単収 (kg/10a)	収穫量 (t)
			うち田				
麦類	小麦	秋まき小麦	255.59	76.38	21.65	360.00	920.12
豆類	大豆		218.33	63.51	18.49	270.00	589.49
	小豆		2.59	1.78	0.22	210.00	5.44
	計		220.92	65.29	18.71	-	-
馬鈴薯	生食用		8.64	2.90	0.73	3,500.00	302.40
	(系統でん粉工場出荷量)		-	-	-	-	90.00
	計		8.64	2.90	0.73	-	-
てん菜			36.73	11.47	3.11	6,300.00	2,313.99
そば			655.53	246.30	55.53	90.00	589.98
野菜	ブロッコリー		14.42	7.69	1.22	600.00	86.52
	加工用トマト		6.11	4.86	0.52	7,000.00	427.70
	メロン		1.00	1.00	0.08	2,300.00	23.00
	ミニトマト		0.49	0.49	0.04	5,000.00	24.50
	その他		6.77	2.77	0.57	-	-
	計		28.79	16.81	2.44	-	-
飼料作物	牧草 (乾燥)		9.06	2.23	0.77	650.00	58.89
	計		9.06	2.23	0.77	-	-
地力作物			40.21	25.80	3.41	-	-
合計			1,255.47	447.18	106.35	-	-

※地力作物 (うち田) : 輪作緑肥2.63、休閒緑肥4.88、連作緑肥18.29

(2) 基本的な輪作の流れ (平成30年産目標)

営農類型	1年目		2年目		3年目	4年目	5年目
畑作専業	① そば※1	秋まき小麦	緑肥:ヘアリーブッチ	てん菜※1	大豆※2		
畑作野菜	① そば	秋まき小麦	緑肥※3	露地野菜	大豆		
	② 露地野菜※4	秋まき小麦※4	秋まき小麦	緑肥:ヘアリーブッチ	大豆		
畑作水田複合	① 水稲	大豆	大豆	水稲(復元)	水稲		
	② 水稲	大豆	大豆	間作秋まき小麦	秋まき小麦		
そば中心	そば(間作赤クローバー)	そば(間作赤クローバー)	そば	秋まき小麦	秋まき小麦		

(3) 「適正な輪作体系」の設定理由

- そばを導入した輪作体系(沼田型輪作体系の特長)、輪作そばの風味を生かした差別化販売。
そば収穫後のほ場には種した秋まき小麦における、春処理茎葉散布除草剤の2回使用+選別システムにより完全にコンタミを防止する。
※1…てん菜を作付しない場合、前2年はそば2年2作という場合もある。
- 大豆の過剰作付防止で、ダイズシストセンチュウ対策を行う。
畑地では、4年輪作以上(大豆・小豆は最低3年間作付しない)とし、田畑輪換では水稲を3年以上作付すること。
※2…大豆のところは、小豆になる場合もある。以下は同様とする。
- 露地野菜の振興 ◎ブロッコリー ◎加工用トマト、スイートコーン、馬鈴薯、南瓜
※3…露地野菜前作・秋まき小麦後作の緑肥の選定: えん麦野生種→ブロッコリー、馬鈴薯
えん麦→加工用トマト、南瓜
ヘアリーブッチ→スイートコーン
- ※4…異なる露地野菜の2年2作、秋まき小麦1年というパターンも考えられる。
- 畑作では、輪作維持のため、てん菜の振興も必要。
- 緑肥、堆肥、排水対策、高畦栽培(露地野菜)、詳細な土壌診断に基づく施肥が必要。
- 水田地帯では、水田に隣接する小麦ほ場のアブラムシ防除による水田のカメムシ対策が必要。
- 緑肥の前作・後作作物で、国際水準GAPに取り組み、化学肥料・化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取り組みを行う場合には、環境保全型直接支払対策を受けることが出来る。

3. 目指すべき「適正な輪作体系」へ向けた協議会の取組内容

「2. 目指すべき「適正な輪作体系」」で設定した協議会の取組内容は以下のとおり。
「産地交付金」だけでなく、沼田町で実施している関連事業の活用方法も整理した。

<基本的な考え>

○作付面積が減少しているてん菜の面積を確保しつつ、ブロッコリーや加工用トマトを中心とした露地野菜の作付も合わせて推進し、土づくりを推進した輪作体系の構築を目指す。

<支援制度>

○事業概要

【①沼田農業所得向上対策事業】

取組メニュー：園芸ハウス更新・増棟支援

助成額：補助率80%以内・限度額1,000,000円

取組内容：園芸ハウスの新規・増棟・更新に必要な設備の導入に要する必要な経費を支援。

取組メニュー：新規作物導入支援

助成額：補助率50%以内・限度額450,000円

取組内容：新規作物(新品種含む)の導入(試験研究含む)に取り組むために必要な経費(苗代、生産資材費等)を支援。

具体的要件：①沼田町において一般販売用に作付されていない作物又はごくわずかしかな作付されていない作物

②初期投資が多めで、収益性が高い作物

③収穫までに複数年を要する作物

取組メニュー：新技術導入実証試験への支援

助成額：補助率50%以内・限度額500,000円

取組内容：町内に新たに作付導入しようとする作物又は技術等の現地実証試験の実施に要する経費の支援。

【②土づくり推進事業】

取組メニュー：畜産農家連携ダンプ運送費支援

助成額：補助率50%以内

取組内容：畜産農家と連携した有機堆肥運搬費を支援。

取組メニュー：土壌診断費支援

助成額：生産者負担100円/サンプルとして差額

取組内容：適正な施肥設計に取り組むための圃場の土壌診断に要する経費を支援。

取組メニュー：安全安心な作物づくり支援

助成額：補助率50%以内・限度額5,000円

取組内容：土壌残留農薬の検査に要する経費を支援

取組メニュー：緑肥作物種子助成（JA北いぶき助成）

助成額補助率50%以内・限度額100,000円

取組内容：後作が畑作・園芸に対し、地力向上のための種子購入代金に要する経費を支援。